

今月の



隣に伝えたい

新たな言葉と概念

【スモン】

- 英 Subacute myelo-optico-neuropathy
- 和 亜急性脊髄視束神経症
- 略 SMON
- 類 キノホルム中毒

〈解説〉

スモンは腹痛・下痢などの腹部症状に引き続いて、特有のしびれ感が足先よりはじまり、下肢全体あるいは胸・腹部にまで上行する神経疾患である。このような感覚障害に加えて、下肢の痙縮や脱力をきたし、重症例では視力障害による失明、さらには脳幹障害による球麻痺での死亡例もあった。1960年代にわが国で多発し、これまでになかった疾患であり、同時に各地で集団発生したことから新しい感染症が疑われ、深刻な社会問題となった。

1970年に整腸剤キノホルム (chinoform, clioquinol) の副作用が原因とする説が提唱され、中央薬事審議会によって同剤の使用が禁止されてから新たな患者の発生はなくなった。患者のキノホルム服用歴などより、疫学的にはスモンの原因は本剤であるのは明らかであり、1972年末までの患者数は9,249人で、1万2千人以上に達したと推定されている。2013年春現在、1,744人がスモン患者として認定されており、それよりも若干上回る数の患者の存在が推定される。

薬害であるスモン患者の恒久対策として、厚生労働省難治性疾患克服研究事業「スモンに関する調査研究班」は患者検診を続けてきているが、本来の神経症状に加えて、高齢化にともなう身体的、福祉的諸問題への対応が必要となっている。

(国立病院機構鈴鹿病院 小長谷正明) 本誌284pに記載